明治維新

名前

問1　1868年から始まった戊辰戦争において、旧幕府軍が最終的な拠点として立てこもり、最後の激戦地となった北海道函館市にある星形の城郭を何といいますか。（2024年 徳島県公立入試 類似）

1. 鶴ヶ城（若松城）
2. 大阪城
3. 五稜郭
4. 江戸城

問2　1871年に欧米へ派遣された岩倉使節団の目的の一つとして、江戸時代末期に結ばれた不平等条約の改正に向けた予備交渉がありました。この使節団を率いた特命全権大使と、同行した女子留学生のうち最年少で、後に女子英学塾（現在の津田塾大学）を創立して女子教育に貢献した人物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2023年 千葉県公立入試 類似）

1. 岩倉具視 と 樋口一葉
2. 岩倉具視 と 津田梅子
3. 福沢諭吉 と 津田梅子
4. 福沢諭吉 と 樋口一葉

問3　1877年、明治政府の進める近代化政策によって特権を失った士族たちが、鹿児島県を中心に起こした士族による最大規模かつ最後の反乱を何といいますか。（2023年 埼玉県公立入試 類似）

1. 佐賀の乱
2. 西南戦争
3. 戊辰戦争
4. 秋月の乱

問4　明治政府が実施した地租改正において、それまでの江戸時代の年貢の納め方と比較して、税の基準と納入方法がどのように変更されたか、最も適切なものを選びなさい。（2026年 福岡県公立入試 類似）

1. 収穫高を基準とし、現金で納めるように変更された。
2. 収穫高を基準とし、米で納めるように変更された。
3. 土地の価格を基準とし、現金で納めるように変更された。
4. 土地の面積を基準とし、米で納めるように変更された。

問5　明治初期、新政府は近代国家への転換を目指して四民平等の政策を進めましたが、これによりそれまでの特権を奪われた士族（旧武士）の不満が高まりました。政府が士族に対して行った、身分上の特権や経済的特権を廃止した政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 栃木県公立入試 類似）

1. 廃藩置県の撤回と苗字の禁止
2. 帯刀禁止と家禄の廃止
3. 徴兵令の廃止と地租の軽減
4. 版籍奉還の拒否と藩札の流通

問6　1862年に新渡戸稲造が生まれた盛岡藩を含む東北地方なども舞台となり、1860年代後半に旧幕府軍と新政府軍の間で行われた内戦の名称として正しいものを選びなさい。（2019年 沖縄県公立入試 類似）

1. 戊辰戦争
2. 応仁の乱
3. 西南戦争
4. 壬申の乱

問7　明治時代に発行された土地の所有権を証明する「地券」という資料には、土地の所有者のほか、納税に関するきまりが記されていました。この改革において、政府が税を「収穫高」ではなく「地価」に基づいて徴収することにした主な目的として正しいものを選びなさい。（2026年 福岡県公立入試 類似）

1. 海外への輸出を促進するため、米以外の農作物の生産を強制するため。
2. 作物の豊凶にかかわらず、政府が一定の税収を確実に確保できるようにするため。
3. 農民の負担を大幅に減らし、自由に作物を栽培できるようにするため。
4. 土地の私有を禁止し、すべての土地を国営化して管理しやすくするため。

問8　明治政府の体制整備に関する略年表において、1873年に設置された内務省の初代長官（内務卿）に就任し、地租改正や殖産興業の推進、警察制度の整備などを通じて近代国家の基盤を築いた薩摩藩出身の人物は誰ですか。（2020年 岐阜県公立入試 類似）

1. 木戸孝允
2. 西郷隆盛
3. 大久保利通
4. 伊藤博文

問9　明治政府が1873年から実施した地租改正において、税を納める方法と基準はどのように定められましたか。当時の状況を説明した次の文のうち、正しいものを選んでください。（2021年 群馬県公立入試 類似）

1. 土地の所有者が、収穫高の3%を米で納税する仕組み
2. 土地の耕作者が、地価の3%を米で納税する仕組み
3. 土地の耕作者が、収穫高の3%を現金で納税する仕組み
4. 土地の所有者が、地価の3%を現金で納税する仕組み

問10　明治新政府が、それまでの太陰太陽暦を廃止して太陽暦を採用した背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 山口県公立入試 類似）

1. 藩ごとに異なっていた独自の暦を統一することで、中央集権的な軍事動員を容易にするため
2. 古くから伝わる干支や暦の習慣を全国一律に禁止し、キリスト教を国教化するため
3. 農業生産を向上させるために、月の満ち欠けに基づいた農作業の伝統を保護するため
4. 欧米諸国と共通の基準を導入することで、近代国家としての体裁を整えるため

問11　明治政府が実施した地租改正の仕組みについて述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 秋田県公立入試 類似）

1. 土地の所有者が、その土地の価格（地価）の3%を、豊凶に関わらず現金で納める。
2. 土地の所有者が、収穫高を基準として算出された金額を、物価の変動に合わせて現金で納める。
3. 土地の耕作者が、その年の収穫高の3%を、地券の交付を受けた後に米で納める。
4. 土地の耕作者が、地価の3%に相当する額を、政府の指示に従って米または現金で選択して納める。

問12　フランス革命後の混乱を収拾し、1804年に国民投票によって「皇帝」の地位に就いたナポレオンが制定した法典について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2025年 京都府公立入試 類似）

1. 絶対王政を復活させるために、国王が持つ絶対的な権限を成文化し、国民が国家に従属することを義務付けた。
2. 行政の長である「首相」の権限を強化し、議会を通さずに人権を制限できるような仕組みをヨーロッパ全土に広めた。
3. 私有財産の不可侵や法の下の平等などを明文化し、近代市民社会の法的な基礎を確立することで各国の民法に大きな影響を与えた。
4. 国家が個人の生活に積極的に介入し、失業者や高齢者の生活を保障する「社会権」の考え方を世界で初めて法的に確立した。

問13　津田梅子ら女子留学生が同行した岩倉使節団の派遣について、その目的や背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2019年 徳島県公立入試 類似）

1. 大正デモクラシーの風潮の中で、普通選挙法の制定に向けた欧米の選挙制度を調査すること
2. 不平等条約の改正に向けた予備交渉とともに、欧米の進んだ制度や文化を視察すること
3. 鎖国体制を維持するために、外国船を撃退するための軍事技術を秘密裏に導入すること
4. 日露戦争の講和条約であるポーツマス条約を締結し、領土問題を解決すること

問14　1873年に始まった地租改正は、それまでの収穫高に応じた年貢に代わり、地価を基準に一定の税率を現金で納税させるものでした。しかし、この改革は農民にとって非常に重い負担であったため、各地で激しい反対一揆が起こりました。こうした情勢を受け、明治政府が1877年に実施した具体的な措置として正しいものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 年貢の割合を江戸時代のような「四公六民」に固定した
2. 課税の基準を地価から再び収穫高（作物の量）に戻した
3. 農民が民間から借りていた借金をすべて政府が肩代わりした
4. 地価の3%としていた税率を2.5%に引き下げた

答え合わせ・解説

問1	答え 3 五稜郭	戊辰戦争は1868年の鳥羽・伏見の戦いに始まり、東北での戦いを経て、1869年に北海道の函館にある五稜郭で旧幕府軍が降伏するまで続きました。五稜郭は西洋の築城技術を取り入れた星形の城郭で、幕末に北方警備の拠点として造られたものです。
問2	答え 2 岩倉具視 と 津田梅子	明治政府は、欧米の進んだ制度の視察や不平等条約の改正を目的として、岩倉具視を特命全権大使とする使節団を派遣しました。この使節団には、将来の日本の近代化を担う人材を育成するために女子留学生も同行しており、その中には当時わずか6歳であった津田梅子が含まれていました。彼女は帰国後、日本の女子高等教育の先駆けとなる女子英学塾を創立しました。
問3	答え 2 西南戦争	明治政府の徴兵令や秩禄処分によって特権を奪われた士族たちの不満が爆発し、西郷隆盛を担ぎ上げて起こした武力反乱です。この戦いで政府軍が勝利したことにより、武力による政府への抵抗は終わりを迎えました。
問4	答え 3 土地の価格を基準とし、現金で納めるように変更された。	明治政府は、政府の収入を安定させるために地租改正を行いました。江戸時代の年貢は「収穫高」に応じた「物納（米など）」であったため、豊作や凶作によって政府の収入が変動していましたが、土地の所有者に「地価」に応じた「現金」を納めさせる仕組みに改めることで、天候に左右されない安定した財政基盤を確立しようとしました。
問5	答え 2 帯刀禁止と家禄の廃止	明治政府は、江戸時代まで武士が持っていた特権を順次廃止しました。1876年には廃刀令によって帯刀禁止（サーベル着用の警察官・軍人以外）が命じられ、さらに家禄（政府から支給されていた給与）を廃止する秩禄処分が断行されました。これにより士族は精神的な誇りと経済的な基盤を同時に失うこととなりました。
問6	答え 1 戊辰戦争	徳川慶喜による大政奉還の後、王政復古の大号令によって成立した新政府と、それに対抗する旧幕府の勢力が政権の主導権をめぐって戦いました。1868年の鳥羽・伏見の戦いに始まり、東北地方での激しい戦闘を経て、1869年の函館・五稜郭の戦いまで続いた一連の戦いを指します。
問7	答え 2 作物の豊凶にかかわらず、政府が一定の税収を確実に確保できるようにするため。	江戸時代の年貢制度では、凶作の年に政府の収入が激減するという不安定さがありました。地租改正により、土地の価値（地価）に対して一定の税率（当初は3%）をかける仕組みを導入したことで、収穫量に関係なく政府は毎年決まった額の現金を確保できるようになり、近代国家としての予算編成が可能になりました。
問8	答え 3 大久保利通	岩倉使節団の一員として欧米を視察した際、諸国の近代化の状況を目の当たりにしたこの人物は、帰国後に内務省を新設しました。内務卿として強大な権限を握り、富国強兵に向けた内政改革を主導しました。同じ維新の三傑である木戸孝允は文部卿などを務め、西郷隆盛は征韓論に敗れ下野しています。
問9	答え 4 土地の所有者が、地価の3%を現金で納税する仕組み	明治政府は、天候によって左右される収穫高ではなく、土地の価値である「地価」を基準に税率を定めました。また、豊凶に関わらず一定の税収を確保し、国家予算を安定させるために、従来の物納（米）から「現金」による納税へと変更しました。この時、納税の義務を負ったのは、地券を発行された土地の所有者です。
問10	答え 4 欧米諸国と共通の基準を導入することで、近代国家としての体裁を整えるため	明治維新期の改革は、欧米の先進的な制度を取り入れることで日本が近代国家であることを内外に示し、不平等条約の改正などを有利に進める狙いがありました。暦の改正は「文明開化」の象徴的な出来事の一つであり、国際的な基準に合わせることで外交や貿易、交通の利便性を高める目的がありました。また、当時の政府にとっては、旧暦のままでは必要だった「閏月（うるうづき）」による余分な月給の支払いを回避できるという財政上の利点も背景にありました。
問11	答え 1 土地の所有者が、その土地の価格（地価）の3%を、豊凶に関わらず現金で納める。	明治政府は近代国家としての財政を安定させるため、1873年から地租改正を実施しました。それまでの「収穫高に応じた米での納付（年貢）」から、「地価を基準とした現金での納付（地租）」へと大きく転換しました。この際、政府は土地の所有者に地券を発行して所有権を認めるとともに、納税の義務を耕作者ではなく土地の所有者に課しました。
問12	答え 3 私有財産の不可侵や法の下の平等などを明文化し、近代市民社会の法的な基礎を確立することで各国の民法に大きな影響を与えた。	ナポレオンは1804年にナポレオン法典（フランス民法典）を制定しました。この法典は、フランス革命で得られた成果である「法の下の平等」「信仰の自由」「私有財産の不可侵」といった原則を整理したものであり、フランス国内だけでなく、ナポレオンの遠征によってヨーロッパ各国の近代法整備に多大な影響を与えました。当時は国家からの干渉を排除する自由権的な性格が強く、社会権の確立は後の20世紀を待つことになります。
問13	答え 2 不平等条約の改正に向けた予備交渉とともに、欧米の進んだ制度や文化を視察すること	岩倉使節団は、岩倉具視を全権大使とし、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文といった政府の有力者が参加した大規模な使節団でした。最大の目的は江戸時代に結ばれた不平等条約の改正交渉でしたが、当時の日本にはまだ近代的な法整備が整っていなかったため交渉は難航しました。一方で、欧米の政治、産業、教育などを直接視察したことは、その後の日本の近代化（文明開化）に極めて大きな影響を与えました。
問14	答え 4 地価の3%としていた税率を2.5%に引き下げた	明治政府は当初、財政を安定させるために地価の3%を地租として現金で徴収しようとしましたが、これは江戸時代の年貢に匹敵する重い負担でした。各地で発生した地租改正反対一揆や、士族による反乱（士族授産の不満など）が重なる中、政府は農民の不満を和らげるために、1877年に税率を地価の2.5%へ引き下げる決断を下しました。